

岩佐昌璋 経歴及び学術活動目録

経歴

一九四二年五月一日 島根県大原郡木次町三日市（現島根県雲南市木次町三日市）に岩佐保、岩佐友子の三男として生まれる

一九四九年四月 木次町立木次小学校入学（一九五五年三月卒）

一九五五年四月 木次町立木次中学校入学（一九五八年三月卒）

一九五八年四月 島根県立三刀屋高等学校普通科入学

一九六一年三月 島根県立三刀屋高等学校普通科卒業

一九六一年四月 大阪市立大学文学部入学

一九六六年三月 同上 中国学科卒業（卒業論文指導教員本田済教授、題目「阮籍小論」）

一九六六年四月 島根県高等学校教員に採用され、県立吉賀高等学校教諭に配属されるが辞退

一九六六年四月 大阪市立大学大学院文学研究科修士課程（中国語中国文学専攻）入学

一九六六年四月 羽衣学園高等学校（漢文）非常勤講師（一九六九年三月）

一九六七年三月 伊藤友子と結婚

一九六九年三月 大阪市立大学大学院文学研究科修士課程（中国語中国文学専攻）修了（指導教員本田済教授、修士論文題目「道家学派の成立」）

一九六九年四月 大阪市立大学大学院文学研究科博士課程（中国文学専攻）入学

一九六九年四月 龍谷大学（中国語）、大阪教育大学付属天王寺高校（漢文）非常勤講師（一九七三年三月）

一九七二年三月 同大学院同研究科同課程 単位取得退学

一九七二年一月

金沢大学教養部教員採用の内定、同時に中国における専家採用決定の通知を受け、専家を
選ぶ

一九七三年三月

中国 北京第二外国語学院 外国人専家として北京に赴任 (一九七八年三月)

一九七八年三月

北京の任期を終え、帰国

一九七八年四月

関西大学、大阪市立大学、同志社大学、神戸大学 (中国語)、大阪府立門真北高校、同野
崎高校、Y M C A 予備校 (現代国語・漢文) 非常勤講師 (一九八〇年三月)。同時に日
中友好協会大阪府本部理事、同中国語教室講師 (一九八〇年三月)。

一九七九年三月

駿台予備校嘱託職員として駿台外語専門学校 (大阪) 設立準備に従事 (一九八〇年三月)

一九八〇年四月

九州大学助教授 (教養部)

一九八八年四月

九州大学助教授 (言語文化部新設にともない配置換)

一九八八年九月

九州大学教授 (言語文化部)

一九九三年四月

文部省在外研究員 (スタンフォード大学 [四月]、香港中文大学 [五月〜六月]、北京大学
[七月以降] にて研究に従事、受入れは中文系・謝冕教授。一九九四年一月)

一九九四年四月

大学院比較社会文化研究科設置にともない国際言語文化講座を兼任 (一九九〇年三月)

一九九八年四月

九州大学評議員・言語文化部長 (一九九〇年三月)

二〇〇〇年四月

改組により大学院言語文化研究院に配置換、大学院比較社会文化学府国際言語文化講座兼
担 (二〇〇五年三月)

二〇〇〇年四月

九州大学評議員・大学院言語文化研究院長 (二〇〇二年三月)

二〇〇二年五月

九州中国学会会長・理事長 (二〇〇五年五月)

二〇〇五年三月

九州大学辞職

二〇〇五年四月

熊本学園大学教授 (外国語学部・同大学院国際文化研究科)

二〇〇五年五月

九州大学名誉教授

二〇〇七年八月

学校法人熊本学園評議員（二〇一三年三月）

二〇〇八年四月

熊本学園大学大学院国際文化研究科長（二〇〇九年一二月）

二〇一三年三月

熊本学園大学を定年によって退職

二〇一三年四月

熊本学園大学特任教授（外国語学部・同大学院国際文化研究科、二〇一四年三月）

非常勤講師

この間、九州大学文学部に併任され講義を担当、また熊本大学文学部、神戸大学文学部、大阪大学文学部、山
口大学人文学部、大阪市立大学文学部、下関市立大学大学院にて集中講義（いずれも中国文学特殊講義）。
一九八〇年より九〇年ぐらいまで福岡女子短期大学、西南学院大学、福岡大学においてそれぞれ短期間の非常勤
講師（全学教育中国語）

学会役職（内は担当した役職）

日本現代中国学会（理事、常任理事、西日本部会代表、編集委員など）、日本中国学会（評議員）、日本中国語学
会（理事、評議員）、九州中国学会（理事、理事長、学会長）、日本郭沫若研究会（代表、会長）

社会における活動

（財）大学基準協会専門審査・評価委員、（財）日本中国語検定協会（評議員、理事、名誉理事）、福岡市アジア文
化賞推薦委員、福岡県第四大都市圏アジア交流推進事業アジア交流人材育成研究会委員、（財）中国研究所所員
西南大学〔中国〕中国新詩研究所客員教授、武漢大学『長江学術』編集委員、四川大学中文系『現代中国文化与文学』
編集委員、重慶市抗戦文史研究中心特約研究員、澳門大学『南国人文學刊』編集委員、郭沫若研究年鑑編集顧問

学術活動

著書・編著・訳書

- 一九八三年 七月 『中国の少数民族と言語』、一一二八頁、光生館〔著書〕
- 一九九二年一〇月 『新时期文学概説』、一一一四七頁、權歌書房〔著書〕
- 一九九七年二月 『《詩刊》(一九五七—一九六四) 総目録・著訳者名索引』(岩佐昌暉主編)、一一一七八頁、中国書店〔編著〕
- 二〇〇一年 三月 『紅衛兵詩選』(岩佐昌暉・劉福春編)、一一二九三頁、中国書店〔編著〕
- 二〇〇三年 三月 言語文化研究叢書Ⅶ『文革期の文学』、一一一六一頁、九州大学大学院言語文化研究院〔著書〕
- 二〇〇四年 三月 『文革期の文学』(改訂版)、一一一七一頁、花書院〔著書〕
- 二〇〇五年 三月 『八〇年代 中国の内景——その文学と社会——』、一一三三三頁、同学社〔著書〕
- 二〇〇五年 三月 『香港文学散歩』(盧瑋鑾編著 岩佐昌暉・間ふさ子訳)、一一一七九頁、九州大学大学院比較社会文化学府〔翻訳〕
- 二〇〇五年 四月 九州大学KUARO叢書第4巻『中国現代文学と九州——異国・青春・戦争』(岩佐昌暉編)、一一一七九頁、九州大学出版会〔編著〕
- 二〇一〇年 八月 『郭沫若の世界』(岩佐昌暉・藤田梨那・武継平編)、一一二七四頁、花書院〔編著〕
- 二〇一〇年 八月 『日本郭沫若研究資料集』(岩佐昌暉・藤田梨奈・岸田憲也・郭偉編) 私家版、全一八巻(評論集一二巻、作品集三巻、墨跡・書簡・回憶集二巻、年譜・事典ほか一巻) + 『日本郭沫若研究資料総目録』一巻、計一九卷一九冊。二〇〇八年中国四川省教育庁科学研究費「郭沫若研究課題」(郭沫若在日本の史料搜集及研究)の研究成果〔編著〕
- 二〇一一年 三月 『中国現代文学と九州——異国・青春・戦争』(岩佐昌暉編・李伝坤訳)、一一二〇七頁、[中国]

南京師範大学出版社〔編著〕

二〇一一年 四月 『日本郭沫若研究資料総目録』〔岩佐昌璋・藤田梨奈・岸田憲也・郭偉編〕、一—八三頁、明德出版社〔編著〕

二〇一二年 三月 『中国現代詩の歩み』〔謝冕著・岩佐昌璋編訳〕、一—三三八＋vii頁、中国書店〔編訳〕

二〇一三年 三月 熊本学園大学付属海外事情研究所研究叢書二七『中国現代詩史研究』、一—四三九頁＋索引二二頁、汲古書院（同じものを汲古書院より市販本として刊行）〔著書〕

二〇一三年十二月 『中国当代文学史』〔洪子誠著・岩佐昌璋、間ふさ子編訳〕、一—六〇二頁＋索引、年表一二七頁、東方書店〔編訳〕

論述・口頭発表（＊印は学会発表、シンポジウムパネラー等、一部講演を含む）

一九六六

十二月 阮籍小論、大安書店「大安」Vol.12、No.12、一一—一四頁〔総説〕

一九六七

十二月 「阿Q正伝」論、大阪市立大学中文研究室「中研ノート」11号、一五—二四頁〔論文〕

一九七〇

一〇月 〈黄老〉派の輪郭——道家学派成立史試論、大阪大学文学部「懷徳」41号、九五—一〇九頁〔論文〕

一九七一

一月 中国古代人の思惟——語彙論的な試み、関西地区大学院生誌「構想」Vol.1、No.1、三八—五三頁〔論文〕

- 一〇月 「竹林の七賢」「老子」「王弼」「何晏」「清談」「李大釗」、講談社『現代世界百科大辞典』(事典)
 * 十一月六日 現代中国の英雄の問題、現代中国学会第21回全国学術大会、学習院大学〔学会〕

 一九七二

- 一月 『文芸講話』の歩み、朝日市民教室『造反する芸術』朝日新聞社、二二二—二六二頁〔論文〕
 六月 語彙論の可能性、朝日新聞社「アジア・レビュー」6号、一八七—一八八頁〔総説〕
 六月 現代中国の英雄の問題、現代中国学会「現代中国」47号、五六—六四頁〔論文〕
 六月 上海市出版革命組『徹底批判孔孟之道』、朝日新聞社「アジア・レビュー」10号、一六四—一六六頁〔書評〕
 一〇月 毛沢東選集語彙事項総索引「編集協力」、毛沢東著作言語研究会編、采華書林、一—五〇六頁〔索引〕
 一二月 蔡元培年譜著作目録、付蔡元培書誌、明清文学言語研究会「明清文学言語研究会報」14号、一—五〇頁〔年譜〕

 一九七五

- 一月 老子、『中国哲学を学ぶ人のために』世界思想社、一二二—一二九頁〔総説〕

 一九七六

- 一月 一九七〇年代初期の中国におけるマルクス主義教育学習運動について、木村英一博士頌寿記念事業会『中国哲学史の展望と模索』創文社、八八三—九〇一頁〔論文〕
 一二月 『句型匯編』、上・下「共編」、北京第二外国语学院日本語教研室、一一四七八頁〔辞典〕

一九八〇

*一〇月一九日 批林批孔は虚妄であつたか?、現代中国学会第29回全国学術大会、徳山大学〔学会〕

一九八一

三月 李学熬について——その伝記と詩(上)、九州大学教養部「文学論輯」27号、七七—八七頁〔論文〕
四月 中国文学の動向——政治の中の愛、中国研究センター「斉放・争鳴」27号、八一—一一頁〔総説〕
七月 映画『苦恋』と白樺批判、「斉放・争鳴」28号、一一—一八頁〔総説〕

一九八二

一月 高曉声の作品——最近の「農村もの」小説について、「斉放・争鳴」30号、一一—一七頁〔総説〕
二月 文革期文学の一面——高紅十と『理想之歌』を中心に、神戸大学「未名」1号、九五—一二六頁〔論文〕
三月 李学熬について——その伝記と詩(下)、九州大学教養部「文学論輯」28号、一二五—一五五頁〔論文〕
三月 チワン語——その紹介と漢語への影響、九州大学「言語科学」17号、一九—三〇頁〔解題〕
四月 チワン族の文学者たち、「斉放・争鳴」31号、一〇—一五頁〔総説〕
四月二〇日 横松宗『魯迅の思想——民族の怨念』、「九州と中華人民共和国」75号、〔書評〕
六月 批林批孔は虚妄であつたか?、現代中国学会「現代中国学会報——一九八一年」、二八—三〇頁〔論文〕
一二月 日常性のなかの少数民族、『人民日報』読者来信「中国研究センター編、編集委員」日本評論社、一〇—一一二頁〔論文〕

*一〇月二四日 小説に見る社会主義の現在——最近の短編小説を素材にして、日本現代中国学会大32回全国学術大会、専修大学〔学会〕

一九八三

一月 『微波』と文協の建物、神戸大学「未名」3号、一六九—一七二頁〔解説〕

三月 〈二分爲二〉と〈合二而一〉をめぐる論争——その展開・終焉・再開の過程、九州大学教養部「文学論輯」29号、九三—一二九頁（本論文第一章は、関西中国研究センター「関西中国研究センター会報」2号、一九八〇年一〇月に掲載）〔論文〕

五月 「老子」「何晏」「阮籍」「李大釗」等、講談社『大事典Desk』（『現代世界百科大辞典』の再録）〔事典〕

五月 毛沢東思想学院『社会主義を考えるシンポジウム』、中国研究センター「斉放・争鳴」34号、六—七頁〔書評〕

六月 小説にみる社会主義の現在——最近の短編小説を素材にして、現代中国学会「現代中国」57号、一六—二二頁〔論文〕

七月 やさしい読み物「王二小」1 大修館書店「中国語」282号〔日中対訳・注釈〕

八月 やさしい読み物「王二小」2 大修館書店「中国語」283号〔日中対訳・注釈〕

八月 劉心武の新作『登麗美』を読む、「斉放・争鳴」35号、六—一〇頁〔総説〕

九月 やさしい読み物「王二小」3 大修館書店「中国語」284号〔日中対訳・注釈〕

一〇月 作家・航鷹の歩み、「斉放・争鳴」36号、一〇—一六頁〔総説〕

一九八四

一月 「整風運動」「陳垣」「陳伯達」「人民公社」「姚文元」「劉少奇」、『中国思想辞典』研文出版、二三六頁、

二四七頁、三〇八頁、三一—三二頁、四一—四二頁、四三—四四頁〔事典〕

六月 高島俊男『声なき処に驚雷を聞く』『文学の自立を求めて』、中国研究所「中国研究月報」436号、四〇—

四二頁〔書評〕

八月 蔣子龍小説の一面、「斉放・争鳴」40号、一一—一三、二〇頁〔総説〕

八月 張弦論ノート——その初期作品と伝記、九州大学教養部「文学論輯」30号、一七一—一八九頁〔論文〕

一二月 現代中国における子ども、加地伸行編『世界子どもの歴史・第9巻・中国』、第一法規、一七三—二〇六頁〔論文〕

一九八五

四月 現代中国文学の人間像の変遷、「斉放・争鳴」43号、九—一二頁〔総説〕

八月 張弦年譜、一九三四—一九八三 初稿——張弦論ノートⅡ、九州大学教養部「文学論輯」31号、一六五—一九一頁〔年譜〕

一九八六

三月 「いじめ」と住宅難——最近の知識人問題、『続「人民日報」読者来信』〔中国研究センター編、編集委員〕、日本評論社、四一—八四頁〔論文〕

三月 「朦朧詩」詩人・顧城について、『伊藤漱平教授退官記念・中国学論集』汲古書院、一〇二七—一〇五〇頁〔論文〕

四月 鹿毛隆郎『中国ドラマチック』、中国研究センター「斉放・争鳴」46号、一二—一三頁〔書評〕

一〇月 〈近代〉を獲得しようとする詩人たち——《今天》覚え書き——、『岡村繁教授退官記念論集・中国詩人論』汲古書院、九四—一九七〇頁〔論文〕

一二月 朦朧詩の源流・雑誌《今天》について、九州大学教養部「文学論輯」32号、一一五—一四七頁〔論文〕

一九八七

二月 『経済中国語』、〔西村明と共著〕 白帝社、七四頁＋語句解説三四頁〔教科書〕

五月 毛沢東——中国革命の哲学者、『中国思想史』(下)、ベリカン社、四四九—四五八頁〔総説〕

五月 ようやく出版された顧城詩集——顧城『黒眼晴』、東方書店「東方」74号、二二—二四頁〔書評〕

六月 大修館書店『中国年鑑一九八七』別冊『中国新时期文学の十年』〔解題〕

*左記項目を執筆『『今天』派の意味』、二五頁、〔農民群像〕、四〇頁—四一頁、〔文革を描く〕、五七頁、

〔青春群像〕、六二頁—六三頁

七月 李功達「青いスカーフ」、大修館書店「中国語」331号、八一—一七頁〔日中対訳〕

九月 読劉心武的新作《登麗美》、『日本学者中国文学研究訳叢』第2輯、〔中国、長春〕 吉林教育出版社、

二六〇—二六七頁〔総説〕

九月 朦朧詩以後の中国現代詩——〈第三代詩人〉について、中国研究所「季刊中国研究」8号、三九—六三

頁〔論文〕

一二月 一九八〇年夏の〈青春詩会〉と朦朧詩批判、九州大学教養部「文学論輯」33号、一〇九—一二三頁〔論文〕

一九八八

四月 中国語入門講座1 SS.を使った文、大修館書店「中国語」340号〔解説〕

五月 中国語入門講座2 数のかぞえ方、大修館書店「中国語」341号〔解説〕

四月 『学好中文』、〔劉三富、海沢州と共著〕、一一—一九課執筆、中国書店、一〇八頁〔教科書〕

五月—六月 中国社会の内幕——文学作品にみる現代中国、〔西日本新聞〕〔総説〕

五月三〇日 1 はじめに——近代化の中の心象風景を、〔西日本新聞〕〔総説〕

五月三一日 2 文革の傷——党の病巣をえぐり出す、〔西日本新聞〕〔総説〕

- 六月 一日 3 幽霊の町——民衆にとつての文革体験、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 三日 4 変わる農民——勤儉蓄財型から消費型へ、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 四日 5 貧農の反乱——農村支配の構造と改革路線、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 六日 6 農村企業——実業家という新しい英雄、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 七日 7 女性差別——スローガンの陰の女たち、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 八日 8 平均主義——民衆の暗い情念をあばく、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 一〇日 9 陣痛——改革の風の中の労働者達、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 一三日 10 世代交代——新人類が問いかけるもの、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 一四日 11 上流階級——復活した「資本家サロン」、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 一五日 12 日常——何が「私」を疲れさせるか、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 一七日 13 奴隷性——「阿Q」はまだ生きている?、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 二〇日 14 売春——負を直視する健康な精神、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 二一日 15 朦朧詩(上)——「自分の目」で世界を見る、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 二二日 16 朦朧詩(下)——「日常」に向け感受性の矢、「西日本新聞」〔総説〕
- 六月 中国語入門講座 3 ものを数える——量詞の使い方、大修館書店「中国語」342号〔解説〕
- 七月 中国語入門講座 4 体言述語文とその周辺、大修館書店「中国語」343号〔解説〕
- 八月 中国語入門講座 5 形容詞が述語になる文、大修館書店「中国語」344号〔解説〕
- * 八月二日 關於文革後の中国詩壇的情况、第一次Soci大・九州大中国学国際學術交流集会、ソウル大学〔学芸〕
- 九月 中国語入門講座 6 動詞を使った文、大修館書店「中国語」345号〔解説〕
- 一〇月 中国語入門講座 7 動詞と場所の表現、大修館書店「中国語」346号〔解説〕
- 一〇月 一九八〇年夏の《青春詩会》和对朦朧詩的批判〔胡世梁訳〕、「中国、重慶」西南師範大学中国新詩研究

所「詩壇動態」第3期、一—一三頁〔論文〕

十一月 中国語入門講座 8 完了の表現、大修館書店「中国語」347号〔解説〕

十二月 中国語入門講座 9 過去・過去の経験と進行持続の表現、大修館書店「中国語」348号〔解説〕

一九八九

一月 中国語入門講座10 助動詞と動詞の重ね形、大修館書店「中国語」349号〔解説〕

二月 中国語入門講座11 結果補語と方向補語、大修館書店「中国語」350号〔解説〕

三月 中国語入門講座12 可能補語・程度補語・数量補語、大修館書店「中国語」351号〔解説〕

三月 蔣光慈赴日考——「異郷与故国」を読む、九州大学言語文化部『文部省科学研究費研究成果報告書・近

世より現代に至る来日中国文学者・思想家たちの日本文化受容に関する総合的研究』六九—八三頁〔論文〕

四月 ステップ中国語、〔荀春生と共著〕1 副詞のいろいろ、大修館書店「中国語」352号〔解説〕

五月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕2 介詞のいろいろ、大修館書店「中国語」353号〔解説〕

五月 中国を震撼させた三週間——胡耀邦の死と学生デモ、「斉放・争鳴」53号、一—八頁〔解説〕

*六月一七日 朦朧詩について、第24回大阪市立大学中文学会、大阪市立大学〔学会〕

六月二五日 中国の民主化要求運動と六月四日の血の弾圧について／人民解放軍「発砲の論理」、九州大学新

聞「第825号〔インタビュ〕」

六月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕3 形容詞——述語と定語になる場合、大修館書店「中国語」354号〔解説〕

七月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕4 状語について、大修館書店「中国語」355号〔解説〕

七月 馮乃超と三木露風、財団法人・霞城館「兵庫県竜野市・三木清、三木露風記念館」霞城館だより」No.8、

四—五頁〔総説〕

八月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕5 接続詞いろいろ①、大修館書店「中国語」356号〔解説〕

- 九月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕6 接続詞いろいろ②——複文と関連詞、大修館書店「中国語」357号〔解説〕
- 一〇月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕7 “把”を使った文、大修館書店「中国語」358号〔解説〕
- 一〇月 「問与答」藍天上？ “藍天下”？、〔荀春生と共著〕、大修館書店「中国語」358号、二九頁〔解説〕
- 十一月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕8 受け身の表現、大修館書店「中国語」359号〔解説〕
- 十二月 顧城の詩「一代人」を読む、九州大学教養部「文学論輯」35号、一六一—一八四頁〔論文〕
- 十二月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕9 使役表現、大修館書店「中国語」360号〔解説〕
- * 一二月 小説における現代中国の開放政策、第2回日本平和学会九州研究集会、福岡県議員会館〔学会〕

一九九〇

- 一月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕10 比較の表現、大修館書店「中国語」361号〔解説〕
- 二月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕11 疑問代詞の用法①、大修館書店「中国語」362号〔解説〕
- 三月 ステップ中国語、〔岩佐・荀〕12 疑問代詞の用法②、大修館書店「中国語」363号〔解説〕
- 四月 張弦の短編小説『記憶』について、『樋口進先生古希記念中国現代文学論集』中国書店、三三五—三五四頁〔総説〕

六月二日 天安門事件後の中国文学界、「西日本新聞」〔総説〕

八月 阿寧「生命之輕与瓦罐之重」『上海文学』四月、敍說舎「敍說」Ⅱ、一六〇頁〔紹介〕

* 一〇月 一般教育における中国語教育の現状と問題点、第39回九州地区大学一般教育協議会、福岡大学〔研究会〕

一二月 復刊された『今天』、「斉放・争鳴」55号、九頁〔紹介〕

一二月 『今天』の創刊者・芒克について、「文学論輯」36号、二〇九—二二五頁〔総説〕

一九九一

一月 喬典運『満票』『奔流』一九八五年三期、敍説舎「敍説」Ⅲ、一四五頁〔紹介〕

四月 『中国語入門講座』〔荀春生と共著〕 樺歌書房、一一一九〇頁〔教科書（文法書）〕

五月 朦朧詩年表、『朦朧詩——その誕生と挫折』〔特集〕 中国研究所「季刊中国研究」20号〔編集〕 *左記を執筆、一六三—一七四頁〔年表〕

朦朧詩——『今天』から徐敬亜まで、一—二四頁〔論文〕

朦朧詩文献案内、中国研究所、一七五—一八三頁〔資料〕

六月 一般教育における中国語教育の現状と問題点、中国当代文学読書会「中国語文研究」第2号、一—八頁〔総説〕

八月 「新生代」詩人・韓東の大衆像、敍説舎「敍説」Ⅳ、一二五—一二三頁〔論文〕

九月 解放後の中国少数民族の文字、博物館等建設推進九州会議「文明のクロスロード Museum Kyusyu」10巻4号（第38号）、二四—三〇頁〔総説〕

一九九二

二月 中国文化史年表「特に近代・現代部分」、角川書店『角川大辞源』二〇六五—二〇八三頁〔年表〕

三月 張弦『記憶』を読む、九州大学教養部「文学論輯」37号、一七五—一九八頁〔論文〕

七月 「峨眉山」「黄大癡」「南京」、敍説舎「敍説」Ⅵ、特集——百科全書芥川龍之介、一九—二〇頁、三三—三四頁、六七—六八頁〔解説〕

八月二日 「中国という鏡」に映る自己像——井尻秀憲『現代アメリカ知識人と中国——知と情念のフロンティア』、『西日本新聞』（書評）

一九九三

三月 楊献珍と艾思奇——「思惟と存在の同一性」論争の周辺、九州大学教養部『文学論輯』38号、二三—四五頁〔論文〕

三月 『中国経済を読む』、〔西村明、河村誠司と共著〕、白帝社、一—八六頁＋語句解説一七頁〔教科書〕

五月 中国語辞書——何を選ぶか、内山書店『中国語』40号、三—五頁〔解説〕

五月 中国研究センターの一五年、博物館等建設推進九州会議「文明のクロスロード Museum Kyusyu」12巻2号（第四四号）、七六—七七頁〔エッセイ〕

五月 世紀末の毒——馮至の「蛇」を中心に——、九州中国学会「九州中国学会」31巻、五九—八〇頁〔論文〕

七月 関於張弦の短篇小説『記憶』〔何茂栄訳〕、『日本学者中国文学研究叢書』第6輯「新時期文学專輯」〔長春〕吉林教育出版社、六〇—七八頁〔論文〕

一〇月 中国文化の「なぜ」に挑む…合山究『雲烟の国』、東方書店「東方」151号、二二頁〔書評〕

八月一日—十五日 日本国内漢語教育の問題、第4回国際漢語教学研討会、〔北京〕香山飯店〔学会〕

*九月五日—八日 対馮至詩『蛇』の一種看法、93華文詩歌國際學術研討会、〔重慶〕西南師範学院〔学会〕

九月一八日 関於中国当代詩歌の分期問題、93中国現代詩学討論会、〔北京〕文采閣〔研究会〕

一九九四

一月 絶望的告別——関於『霸王別姫』の座談、河北省文学芸術界連合会「文論報」301期〔座談会〕

二月 対馮至詩『蛇』の一種看法、北京語言学院出版社『中国文化』第3号、一四—一四五頁〔論文〕

三月 『今天』の詩人・威力について、九州大学教養部「文学論輯」39号、七三—九八頁〔論文〕

七月 文字改革論争、『原典中国現代史（第5巻）思想・文学』岩波書店、一四〇—一四七頁〔翻訳、解題〕

八月 『北京之行』、中国国家对外漢語教学領導弁公室企画、〔北京〕中央音像教材出版社、〔教材翻訳担当、文

法解説者として出演」、〔ビデオ教材〕

九月 日本国内漢語教育的問題、陳学超主編『国際漢語論壇』西北大学出版社「中国、西安」、三二五—三二九頁〔解説〕

一二月 旧世代詩人の新生——四川の詩人・梁上泉の詩をめぐって、九州大学中国文学会「中国文学論集」23号、九三—一二頁〔論文〕

一九九五

一月 中国作家たちの〈八・一五〉、敍説舎「敍説」11号、四八—五五頁〔総説〕

三月 紅衛兵運動の挽歌——郭路生の詩について(上)、神戸大学中文会「未名」13号、一〇九—一二六頁〔論文〕

三月 『よくわかる中国語 初級』、〔梁愛蘭と共著〕、光生館、一—一〇三頁〔教科書〕

三月 『中国語初級テキスト 起飛「ちーふえい」』、〔笠征、海沢州と共著〕、中国書店、一—一〇五頁〔教科書〕

*五月二一日 中国現代文学の発想について、平成七年度九州中国学会大会、福岡教育大学〔学会〕

*六月二四日 〈暗黒／光明〉モデルについて、日本現代中国学会関西部会、神戸大学〔学会〕

七月二四日 中国文学 九〇年代の質的変化、「朝日新聞」夕刊〔総説〕

九月 『艾思奇「陳望道」、霞山会『近代中国人名辞典』二—三頁、九六—九七頁〔辞典〕

九月 盧韋鑾先生の二冊の本——『香港文縦』と『香港文学散歩』、同学社「トンシユエ」第10号、一二—一四頁〔書評〕

*九月二七日—九月二九日 関於〈暗黒／光明〉模式、中国現代詩国際学術討論会、「オランダ」ライデン大学〔学会〕

*一〇月二二日 改革・開放と文学——新时期文学終焉論をめぐって、日本現代中国学会第44回全国学術大会、

大阪大学〔学会〕

一九九六

- 三月 紅衛兵運動の挽歌——郭路生の詩について（下）、神戸大学中文会「未名」14号、八三一—一〇六頁〔論文〕
 七月 改革・開放と文学——「新时期文学」終焉論を中心に、日本現代中国学会「現代中国」第70号、七六一—八九頁〔論文〕

- *八月二日 關於中国現当代文学的創作模式、第9次SocET大・九州大中国学国際学術交流集会、ソウル大学〔学芸〕
 八月 關於中国現当代文学的創作模式、ソウル大学中国語中国文学研究室『第9次SocET大・九州大中国学国際学術交流集会発表論文集』、五五—六三頁〔論文〕

一九九七

- 一月 「赤い海原」ほか九〇項目、陳東林ら主編、加々美光行監修『中国文化大革命事典』中国書店、三四九—四三一頁〔翻訳〕

- 三月 謝冕「文学に見る中国」「改革・開放」の深層——現代詩の人間像を中心に、「アジア太平洋センター」「APCアジア太平洋研究」創刊号、六二—六六頁〔翻訳〕

- 四月 『初級漢語入門』、〔荀春生、日下翠、西山猛と共著〕、中国書店、一—五〇頁〔教科書〕

- 五月 抗戦期の旧詩雑誌『民族詩壇』について、九州中国学会「九州中国学会報」第35巻、九六—一二二頁〔論文〕

- 七月 人力車と文学、博物館等建設推進九州会議「文明のクロスロード Museum Kyusyu」15巻3号（第57号）、一八一—二五頁〔総説〕

- 八月 『修学旅行のためのサポート中国語』、〔張曉衛、日下翠、西岡民子と共著〕、同学社、一—六三頁〔教科書〕

- 一〇月 『初級漢語入門 二』、〔荀春生、日下翠、西山猛と共著〕、中国書店、一—三七頁〔教科書〕

- 一〇月 中国語研修旅行について、九州大学大学教育研究センター「九州大学教育情報」第1号、五一—六頁〔報告〕

一九九八

二月 九州の地域性に根差したアジア経済研究の書…西村 明『環黄海経済圏交流への視座——九州からの発信』、東方書店「東方」208号、二〇—二三頁〔書評〕

三月 『今天』覆刻版、内山書店「中国図書」108号、七—九頁〔書評〕

三月 『実践論「矛盾論」毛沢東』、岩波書店『岩波哲学・思想事典』六六七頁、一五六八頁、一五九〇—一五九二頁〔辞典〕

四月 『初級 漢語入門』、『荀春生、日下翠、西山猛と共著』、中国書店、一—九〇頁〔教科書〕

*八月二十九日—三〇日 中国現代文学に見るアジア的価値観、日韓東アジア学会合同会議、「韓国、安東」安東文化会館〔学会〕

一〇月一七日 市場経済下の中国文学、「西日本新聞」〔総説〕

一〇月 一隻被折断翅膀の鳥——《詩刊》の七年（上）、西南師範大学中国新詩研究所「中外詩歌研究」一九九八年4期、六三—六六頁〔論文〕

一九九九

二月 一隻被折断翅膀の鳥——《詩刊》の七年（下）、〔重慶〕西南師範大学中国新詩研究所「中外詩歌研究」1期、五六—六〇頁〔論文〕

三月 『実力中国語』、『荀春生、日下翠、西山猛と共著』中国書店、一—九五頁〔教科書〕

五月 『何其芳』など二項目、岩波書店『現代中国事典』〔辞典〕

二〇〇〇

三月 『何を学べばいいかわかる 音からの中国語』、『原瀬隆司、何秋平と共著』、光生館、一—一二五頁〔教

科書]

三月 中国社会主义文化の解体、アジア太平洋センター「アジア太平洋研究」第6号、一六—二七頁 [論文]

三月 The Dissolution of China's Socialist Culture: The State of Literature in the 1980s and 1990s, Asian-Pacific Center, *Journal of Asian-Pacific Studies*, pp19—34 [論文]

八月 李国文「悵惘」1 内山書店 [中国語] 487号、六〇—六二頁 [日中对訳・注釈]

九月 李国文「悵惘」2 内山書店 [中国語] 488号、六六—六八頁 [日中对訳・注釈]

一〇月 李国文「悵惘」3 内山書店 [中国語] 489号、六六—六八頁 [日中对訳・注釈]

十一月 李国文「悵惘」4 内山書店 [中国語] 490号、六二—六四頁 [日中对訳・注釈]

二〇〇一

三月 On the Light/Darkness Model 九州大学大学院比較社会文化学府「比較社会文化」第7巻、一一九

— 一二五頁 [論文]

三月 『文革期文学』の基礎的研究 [平成9年度、11年度科学研究費補助金 (基盤 (C) (2)) 研究成果報告書]、一—二四四頁、九州大学大学院言語文化研究院 [報告書]

*五月一九日 出発期の馮至——『緑衣人』を読む、平成13年度九州中国学会大会、琉球大学 [学会]

*七月一〇日—一三日 中国現代文学中的伝統創作思維模式、中国現代文学伝統 国際学術研討会、[中国] 南
京大学中国現代文学研究中心 [学会]

*九月八日 文学は「東アジア世界」を共有できるか?、第10回東アジア学会、西南学院大学 [学会]

*一二月一五日—一七日 浅談『蒼白』、中国新詩理論国際学術研討会、首都師範大学・ライデン大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校共催、[北京] 香山飯店 [学会]

二〇二一

五月 三つの「大雁塔」詩——政治の時代から経済の時代へ向かう中国当代文学、『わかりやすくおもしろい中国文学講義』中国書店、二〇八—二一九頁〔論文〕

六月 浅説「蒼白」——馮乃超詩中日本象徵詩歌の影響、北京師範大学中文系・北京師範大学出版社編「文学前沿」2002年総第五輯、一三八—一四九頁〔論文〕

* 一月二〇—二二日 若干郭沫若詩歌的写作背景、郭沫若与百年中国学術文化国際論壇、中国社会科学院〔学芸〕

二月 中国現代文学中的伝統創作思維模式、南京大学中国現代文学研究中心編『中国現代文学伝統』〔北京〕人民文学出版社、八八—九九頁〔論文〕

一二月 跋（武継平博士論文）、武継平『異文化のなかの郭沫若——日本留学の時代』九州大学出版会、三九—三九六頁〔序跋〕

二〇二二

二月 福岡滞在期の郭沫若文学の背景その他、九州大学大学院言語文化研究院「言語文化論究」No.17、一二—一三四頁〔論文〕

三月 『文学創作の発想法に基づく中国現代文学史の研究』〔平成12年度～14年度科学研究費補助金（基盤（C）（二））研究成果報告書〕、一一七頁、九州大学大学院言語文化研究院、〔研究報告書〕

四月 紅衛兵運動的挽歌——關於郭路生的詩〔荀春生訳〕、藍文学界「藍BLUE」総第10期、八八—一二二頁〔論文〕

五月 若干郭沫若詩歌的写作背景、〔詩探索〕49・50輯合併号、〔中国、天津〕天津社会科学院出版社、九八—一一頁〔論文〕

五月 短編小説「鼠災」をめぐる（一）、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」創刊号、二—三頁〔総説〕

*六月二八日 中華人民共和国の非公然出版物について、文部科学省特定領域研究「東アジア出版文化の研究」

第5回研究会、九州大学国際研究交流プラザ「研究会」

*七月五日 〈暗黒と光明〉というキーワード中国現代文学を貫くもの、第50回大阪市立大学中国文学会、大阪市

立大学「学会講演」

八月 短編小説「鼠災」をめぐる(2)、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第2号、七一—一〇頁〔総説〕

八月 郭沫若「燃える石炭——祖国を思う」、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第2号、一三一—一四頁〔翻訳〕

一二月 「私詩」としての初期郭沫若詩歌、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第3号、一四—一七頁〔総説〕

二〇〇四

一月 什麼是「文革時期文学」——一種辭書性質的定義〔武繼平訳〕、藍文学会「藍 BLUE」第13期、

一八〇—一八五頁〔解説〕

二月 王良和「柚子」〔解題・香港の詩人王良和について——ザボン連作と彼の詩壇的地位〕、九州大学大学院

言語文化研究院「言語文化論究」No.19、一七九—一九一頁〔翻訳・解題〕

三月 王家平「紅衛兵新聞とその輪郭」〔溝口喜郎と共訳〕、九州大学言語文化研究院言語研究会「言語科学」

39号、一一五—一二三頁〔翻訳・解題〕

三月 『文革期文学雑誌目録(一)』〔平成15〜16年度科学研究費補助金(特定領域研究(二))研究成果中間

報告書〕、一一二—二五頁、九州大学大学院言語文化研究院「研究報告書」

五月 初期郭沫若詩「晴朝」の風景、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第4号、一〇—一二頁〔総説〕

五月 序文、『九州中国学会五十年史』九州中国学会、一一二頁〔序跋〕

*五月二八日 決裂と和解——対従紅衛兵詩歌到朦朧詩中的「媽媽」題材作品的考察、文化大革命時期中国詩歌

暨样板戲国際学術研討会、「韓国、釜山」東亜大学教授会館「学会」

*六月二六日 文革期の地方文芸雑誌について、文部科学省特定領域研究「東アジア出版文化の研究」第6回研究集会、「那覇市」共済会館八汐荘〔学会〕

八月 序『新詩芸術論』、劉静『新詩芸術論』中国文史出版社、一一二頁〔序跋〕

*一〇月三二日 民主化運動期の非公然出版物における文学資料、文部科学省特定領域研究「東アジア出版文化の研究」下京学会、キャンパスプラザ京都、〔研究会〕

一二月 山田敬三編『境外の文化——環太平洋圏の華人文学』、汲古書院

一、香港現代詩の一面——王良和とそのザボン連作について——、四三二—四五二頁〔論文〕

二、香港当代文学の概略——劉登翰『香港文学史』をめぐる、七二六—七五七頁〔総説〕

二〇〇五

一月 文革期の地方文学雑誌について、九州大学大学院言語文化研究院「言語文化論究」No.20、一三一—二三頁〔論文〕

一月 文革期の地方文芸雑誌について、『ナオ・デ・ラ・チーナ』第8号、二三—二五頁〔解説〕

三月 中国現代文学に見る女性像——「女性」「婦女」「女人」をキーワードとして——、松村瑞子他『言語と文化のジェンダー』言語文化叢書XV、九州大学大学院言語文化研究院、七二—八三頁〔論文〕

三月 『朦朧詩の発見——「論争」から「批判」へ——、九州大学大学院言語文化研究院言語研究会「言語科学」第40号、一一—一七頁〔論文〕

三月 『中華人民共和国の非公然刊行物における文学資料の調査・研究』〔平成15—16年度科学研究費補助金（特定領域研究（二））研究成果報告書〕、一一三—一二三頁、九州大学大学院言語文化研究院、〔研究報告書〕

三月 民主化運動期の非公然出版物の文学資料——『沃土』を中心に——、『東アジア出版文化の研究』調整班（B）出版物の研究』一三一—二八頁〔論文〕

- 四月 探討中国大陸「文革時期文学」〔蔡長江訳〕、中共研究雜誌社「中共研究」〔台北〕、39卷460期、九〇—一〇一頁〔総説〕
- 四月 中国大陸地下文学時代意義——虚心向歴史学習、中共研究雜誌社「中共研究」〔台北〕、39卷460期、一〇三—一〇四頁〔総説〕
- 六月 謝冕「新中国と共に歌う——建国三十年詩歌創作の回顧」その一 熊本学園大学「文学・言語学論集」第11卷2号、第12卷1号合併号、一三七—一五八頁〔翻訳・解題〕
- 七月 馮乃超における日本象徴詩の受容——「蒼白」という詩語を手がかりに、香坂順一先生悼記念論文集編纂委員会編『香坂順一先生追悼記念論文集』、光生館、二四三—二五八頁〔論文〕
- 八月
- *八月二五日 日本郭沫若研究会の活動、「郭沫若与中国知識分子在民族解放戰爭中的文化選択」國際學術研究会、〔中国、青島〕青島大学〔学会〕
- *八月二〇日 研究文革時期詩歌中的一些問題、中国新詩一百年國際研討会、〔北京〕達園賓館〔学会〕
- 九月 虚構的風景——郭沫若早期詩歌《晴朝》の風景、〔中国、合肥〕安徽師範大学中国詩歌研究中心編「中国詩学研究」第4輯、人民文学出版社、二一〇—二二四頁〔総説〕
- 九月 関於《日本郭沫若研究会》、四川郭沫若研究会「郭沫若学刊」73期、2005年第3期、七六—七八頁〔解説〕
- 一〇月 青島郭沫若学会参加記、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第7号、八一—一一頁〔雜纂〕
- 一二月 謝冕「新中国と共に歌う——建国三十年詩歌創作の回顧」その二 熊本学園大学「文学・言語学論集」第12卷2号、一五三—一七六頁〔翻訳〕

二〇〇六

三月 一九二〇年代中国留学生の選択、九州大学アジア総合政策センター『アジアを知りたい』六六—六七頁〔解説〕

三月 北京大学許智宏学長祝辞（平成一六年度九州大学大学院学位記授与式祝辞）、九州大学総務部広報室『九州大学講演集 緑風』第4号、八七—九〇頁〔翻訳〕

三月 李学鰲の伝記与詩歌〔沈晔弟、裴立杰訳〕、『新中国第一位工人詩人李学鰲』大衆文芸出版社、三六三—三九八頁〔論文〕

六月 謝冕「新中国と共に歌う——建国三十年詩歌創作の回顧」その三 熊本学園大学「文学・言語学論集」第13巻1号、八五—一〇一頁〔翻訳〕

*八月七日 紅衛兵時代の出版とその保存、シンポジウム「東アジアの出版と地域文化」文部省科学研究費特定領域研究（A）成果報告会、パシフィコ横浜、「科研成果報告会」

九月 中国現代文学与九州、〔李書元訳〕、「成都」四川大学中文系「現代中国文化与文学」第3輯、「中国、成都」巴蜀書社、一五六—一六三頁〔総説〕

*九月二五日 簡介近一五年日本对中国新詩介紹・研究情況、第二屆華文詩学名家国際論壇、「重慶」西南大学〔学会〕

一一月 橋本高勝編『中国思想の流れ（下）明清・近現代』晃洋書房〔総説〕

一 硬骨の「修正主義哲学者」——楊献珍、二八三—二九〇頁

一二月 二 マルクス主義の解説者——艾思奇、二九一—二九七頁

記抗戦時期的旧詩雑誌《民族詩壇》〔劉静訳〕、「重慶」重慶師範大学学報、哲学社会科学版）2006年第6期、二五—三二頁〔論文〕

一二月 謝冕「中国現代詩の歩み（一九一九—一九四九）」I 熊本学園大学「文学・言語学論集」第13巻2号、二〇九—二五六頁〔翻訳・解題〕

二〇〇七

- 一月 郭沫若のロマンティズム——「炉中煤」から思いつくこと、日本郭沫若研究会「郭沫若研究会報」第9号、一〇—一二頁〔総説〕
- * 一月二七日 文革期文学について、東アジア社会文化研究会、熊本学園大学〔研究会〕
- 六月 中国与日本…中国現代詩学的昨日与今天、対談…岩佐昌璋、呂進、「北京」「文芸研究」、2007年第6期、六一—七一頁〔総説〕
- 六月 謝冕「中国現代詩の歩み（一九一九—一九四九）」Ⅱ 熊本学園大学「文学・言語学論集」第14巻1号、二二四—二五四頁〔翻訳〕
- 六月 이와사 마사아키、[高紅十、理想의 노래、의 미완적 성격]、『동아시아 : 비교와 전망』제6집1호、동아대학 동아시아연구원、2007년、103-126쪽。East Asia: *Comparative Perspective* (6-1), The Institute for East Asian Studies. [釜山] Dong-A University, 103-126〔論文〕
- 七月 流沙河「草木篇」批判始末、山田敬三先生古稀記念論集刊行会編『南腔北調集』汲古書店、五一—五三八頁〔論文〕
- * 七月二三日 从「炉中煤」想到的几件事、当代視野下的郭沫若研究国際研討会、中国四川省梁山師範学院〔学会〕
- * 九月二一日 什麼是文革文学、文革時期文学研究国際學術集会、熊本学園大学〔学会〕
- 一〇月 이와사 마사아키、[紅衛兵運動의 輓歌 - 郭路生]、『동아시아 : 비교와 전망』제6집2호、동아대학 동아시아연구원、2007년、91-123쪽。East Asia: *Comparative Perspective* (6-2), The Institute for East Asian Studies. [釜山] Dong-A University, 91-123〔論文〕
- * 一二月一日 漢字における反訓という現象について、東アジア学会、ビジョンと連帯二一合同研究会、西南学院大学西南コミュニケーションセンター〔研究会〕

二〇〇八

- 一月 漢字における反訓という現象について、東アジア学会「東アジア研究」第7号、六〇頁—六二頁〔総説〕
- 二月 郭沫若の博多——海と松原、西日本文化協会「西日本文化」No. 431、二〇—二二頁〔総説〕
- 三月 文革新期の小説『生命』とその批判について、『吉田富夫先生退休記念中国学論集』汲古書店、三七—三八三頁〔論文〕

三月 紅衛兵時代の出版物とその保存〔岩佐昌暉・陳奇仲・鱒沢彰夫、磯部彰編『東アジアの出版と地域文化 むかしの本のものがたり』汲古書院、一二五—一六二頁〔シンポジウム記録〕

三月二五日 日中文化フォーラム・日中の文学・思想における異文化理解、関東学院大学文学部、KGU関内メディアセンター〔フォーラム〕

三月 郭沫若顕彰碑、(九州大学医学部図書館前)〔撰文〕

五月 「帰来」という主題——八十年代中国詩の一面——、九州中国学会「九州中国学会報」第46巻、七六—九〇頁〔論文〕

八月 郭沫若と九州大学(冊子) 九州大学国際交流推進室〔監修〕

一〇月六日 福岡の「文化遺産」としての郭沫若——郭沫若研究国際学会を終えて、「西日本新聞」〔総説〕

*一〇月一九日 転形期一九七八年を再考する——中国現代詩における一九七八年、日本現代中国学会第58回全国学術大会、東京大学〔学会〕

一二月 謝冕「中国現代詩の歩み(一九一九—一九四九)」Ⅲ 熊本学園大学「文学・言語学論集」第15巻2号、三八六—四一六頁〔翻訳〕

二〇〇九

*二月二一日 朦朧詩について、「文化大革命の文化史的再考」第2回研究会、「東京本郷」機山館〔研究会〕

*三月二六日 關於現代文学研究中的実証問題——以“暴露与諷刺”為例子——、「マカオ」澳門大学中文系〔招待講演〕

七月 老一代詩人の新生——論四川詩人梁上泉の詩「葉方俠訳」、彭斯遠編『透視梁上泉』、「中国、北京」作家出版社、九四—一〇七頁〔論文〕

*八月二七—二八日 Guo Moruo Research in Japan, First World Congress of International Guo Moruo Academy, Johns Hopkins University, USA [学友]

八月 郭沫若的旧体詩《睡起》與《民族詩壇》〔岩佐・蔡震〕、*Proceeding of International Guo Moruo Academy, Johns Hopkins Univ.* 七九—八四頁〔論文〕

*一〇月九日 私と文革、二〇〇九年度中国現代文学研究者懇話会、東京大学東洋文化研究所〔研究会〕

一二月 日本における郭沫若研究九〇年、熊本学園大学「文学・言語学論集」第16巻第2号、三五—四九頁〔総説〕

*一二月二二日 日本における文革期文学の研究状況——その簡単なスケッチ、愛知大学国際中国学研究センター「国際シンポジウム」〔国内外文化大革命研究の現状と問題点〕愛知大学車道校舎〔シンポジウム〕

二〇一〇

二月 《民族詩壇》執筆者索引〔岩佐・呉双・蔡震〕、熊本学園大学付属海外事情研究所「海外事情研究」第37巻第2号、一五一—一七三頁〔索引〕

三月 日本における文革期文学の研究状況——その簡単なスケッチ、科学研究費基盤研究（B）「文化大革命の文化史的再考」、和光大学「文化大革命の文化史的再考」研究会事務局、四九—五六頁〔総説〕

*四月二〇日 有關 日本文學和“日本語文學”的研究——作為“漢語新文學”論的補充、“漢語新文學史”國際學術研討會、「マカオ」澳門大學〔学会〕

*五月一六日 時代の陥穽——張天翼の小説『華威先生』をめぐる、九州中国学会第58回大会、熊本学園大学

〔学会〕

八月 五言旧詩「題延光四年磚」をめぐる——『民族詩壇』との関わりその他、『郭沫若の世界』花書院、

一二九—一三七頁〔論文〕

*八月二〇日 「作為文献史料の報紙文章——記郭沫若一九五五年訪日的報道」、郭沫若文献史料国際学術研討会

暨IGMA学術年会、「済南」山東師範大学〔学会〕

一二月 謝冕「中国現代詩の歩み（一九一九—一九四九）」IV 熊本学園大学「文学・言語学論集」第17巻2号、

二〇七—二三二頁〔翻訳〕

一二月 序文、間ふさ子『中国南方話劇運動研究』九州大学出版会、i—iv頁〔序跋〕

*一二月四日 日本における郭沫若研究、日本聞一多学会創立一〇周年記念大会、二松学舎大学〔学会〕

*一二月一九日 「我們需要重新回到史料中去」、中国抗戦文史研究国際学術研討会、重慶師範大学〔学会〕

二〇一

六月 謝冕「中国現代詩の歩み（一九一九—一九四九）」V 熊本学園大学「文学・言語学論集」第18巻1号、

一三一—一六四頁〔翻訳〕

九月 『民族詩壇』という雑誌、熊本学園大学付属海外事情研究所「海外事情研究」第39巻第1号、一一一—

一二八頁〔論文〕

*一〇月二二日、「《女神》研究在日本」、中国郭沫若研究会・西華師範大学共催「《女神》与二〇世紀中国文学学

術研討会暨郭沫若研究青年論壇」、「四川省南充市」西華師範大学〔学会〕

一二月 我們需要回到資料中去——有関『華威先生』的研究、「抗戦文史研究」第二輯、「重慶」西南師範大学出

版社、九一—一〇一頁〔論文〕

一二月 一九四五年八月の断章——抗戦勝利と昆明の知識人、日本聞一多学会会報「神話と詩」第10号、七三—

八二頁〔総説〕

- 一二月 謝冕「中国現代詩の歩み（一九一九—一九四九）」VI 熊本学園大学「文学・言語学論集」第18巻2号、
三二七—三五〇頁〔翻訳〕

二〇一二

- 三月 日本における郭沫若『女神』の研究、熊本学園大学付属海外事情研究所「海外事情研究」第39巻第2号、
一三九—一五二頁〔総説〕
- 三月 郭沫若「私の詩作の経緯」〔顧雯訳、岩佐昌璋解題〕、「東海大学総合経営学部紀要」第4号、八九—
一〇〇頁〔翻訳・解題〕
- 四月 記日本対郭沫若『女神』的研究〔顧雯訳〕、「郭沫若学刊」二〇一二年2期、100期、五四—五九頁〔総説〕
- 七月 若干郭沫若詩歌的写作背景、『郭沫若研究文献匯要（1920—2008）』巻6文学・詩歌卷、上海書
店出版社、二一一—二二三頁〔論文〕

- 一二月 圍繞郭沫若的五言旧体詩《題延安光四年磚》的小問題——与《民族詩壇》的關係及其他、〔程楠訳〕、「成
都」〔成都大学学报〕社会科学版、二〇一二年6期、一一〇—一一三頁〔論文〕

- 一二月二日 国際シンポジウム 21世紀中国文化和知識人、和光大学総合文化研究所、町田市文化交流センター、
〔シンポジウム・パネラー〕

- 一二月 中国現代詩を貫くもの——「暗黒／光明」という創作モデルをめぐって、熊本学園大学「文学・言語学
論集」第19巻2号、一五八—二〇二頁〔論文〕

二〇一三

- 三月 郭沫若「郭沫若より宗白華への手紙」〔顧雯訳、岩佐昌璋解題〕、「東海大学総合経営学部紀要」第5号、

四九—六〇頁〔翻訳・解題〕

四月 『くまがく中国語 発音編』〔岩佐・石・李・野田編〕、熊本学園大学外国語学部東アジア学科中国語教室、

一—三三頁〔教科書〕

八月 流沙河断章、大江論叢編輯委員会「大江論叢」、三一—六頁〔雑纂〕

九月 經典長詩《香妃夢回》日訳「香妃の還る」、〔香港〕香港文学促進協会「香港文学報」2013年第3期（総

128期）、三頁〔翻訳〕

九月 張詩劍「香妃夢回」、熊本学園大学付属海外事情研究所「海外事情研究」第40巻第1号、一五九—

一六八頁〔翻訳・解題〕

* 一〇月二七日 「傷痕」の主題をめぐって——「決裂」から「和解」へ、日本現代中国学会第63回全国学術大会、

福岡大学〔学会〕

* 一二月六日 改革開放体制下の詩歌——旧的詩歌写作模式要復活？、「改革開放前後中国当代詩歌趨勢」国際

学術研討会、「釜山」東亜大学石堂学術院人文科学研究所〔学会〕

「学術活動目録」付記

専任として八年、特任として一年、まるまる九年間お世話になった本学とも、明年三月を以てお別れすることとなった。わたしはかねて定年退職のあかつきには、自分の「経歴・研究業績表」を本誌に掲載しておきたいと考えていた。だが、わが『文学言語学論集』は、規程によつて、「経歴・研究業績目録」の類を掲載しないことになっていた。ただ、一定の年限(十五年以上)在職した者には定年退職の際に「特別号」(例えば、○○教授退職記念号)を刊行できるという条項があり、十五年以上の在職者はその機会に「経歴・研究業績目録」を掲載することができた。

数年前の総会で、掲載できる原稿として、退職教員の経歴・研究業績を加えることが認められた。そうするよう主張したのはわたしである。わたしは研究者が、定年退職によつて、その「研究者たる身分」を保証されてきた職場を離れるに当たつて自分のそれまでの研究生生活を振り返つてみようと思ふのは当然であり、それを「経歴・研究業績表」のような形で公にしたいと考えるのも人情として当然である。それを在職年数で制限するのは情理に悖る、という人情論を述べて、編集規程の変更を求め、受け入れられた。その時も申し添えたが、それはわたし個人がやがて来るべき定年の際にそうした記録を残しておきたいという利己的な考えから出ていた(ただ、こういう主張をしたのはそれだけが理由ではない。この雑誌の「特別号」の規程では、不幸にして逝去した教員があつた場合でも、在職十年以上の者のみしか追悼号を出さないことになっていた。そうした規定は、わたしには馬鹿げた「権威主義」に感じられた。逝去者の「特別号」は、死者を追悼するためのものであるはずだが、追悼されるために十年以上の在職期間が必要なのであつた(！)わたしはいささか腹を立ててもいて、こういう規程は変えるべし、と考えていたのだ)。ともあれ、規程は変更され、小稿はその適用を受ける最初の例ということになる。

「研究業績」というものには一定の書式がある。著書、論文(いわゆる研究雑誌に掲載されたもの)、総説・解説、等々に分類して記述するわけである。今回、わたしもその書式に従うつもりであつた。しかし、この目録が

わたしにとって自らが研究者として歩んできた道のりを振り返り、確認する、そしてそれを公にできる最後の機会であることに思いいたって、考えを変えた。自分の「研究業績」を編年式にまとめてみようと考えたのである。

「研究業績」を項目別に分類せず、年代順に並べていく作業は、個人的にはわたし自身の歩みを振り返ることでもあり、「業績」のために苦勞していた時の研究上の事情だけではなく、その当時の生活状況や人間関係などまでが思い出され、なかなか楽しかった。だが、その過程で、わたしはいわゆる「研究業績」だけでなく、研究的要素をもった雑文や、教え子の著書の序文、跋のようなもので、時系列的に書きこんだ。大学や地域の市民講座や講演会のようなものまで入れることはやめたが、私個人の研究テーマと関わるものについては、小さな研究会での報告や講演の類も入れた。これで数が増えた。

さらに、断っておかなければならないのは、原著ではなく、翻訳発表された論文等を入れたことについてである。わたしの書いたもののうち、中国（ごくわずか香港、韓国）で翻訳発表されたものがある。多くはないが、少ない数でもない。それらを「業績」としてここに書けば二重の記載になる。躊躇したが、やはり記載することにした。自分の書いたものが翻訳発表された、ということが嬉しく、他人に誇りたいという単純な見栄がはたらいたからだ。ただ、そのために「業績」の数がずいぶん増えた。同じ内容の文の日本語版と翻訳版とを両方載せているからで、これは水増しである。正味の学術論文だけ、ということなら「業績」はこの半分くらいしかないだろう。

題名を「研究業績目録」とせず、「学術活動目録」としたのはそのためである。（二〇一三年十二月三校の際に記す）